

巻 頭 言

大学図書館長就任にあたって

大学において、図書館が知的探求の場として必要不可欠なものであり、学問・研究のために中心的な役割を果たすものであることは改めて指摘するまでもないでしょう。

ご存知の通り、関西学院大学図書館は、現在西宮上ヶ原キャンパス大学図書館と神戸三田キャンパス大学図書館分室（図書メディア館）から構成されていますが、このような体制がとられる以前は、長い間上ヶ原キャンパスにある時計台が図書館として使用されてきました。時計台が、中央芝生に面した上ヶ原キャンパスの中心に配置されていることから容易に推察できるように、関西学院大学においても図書館は学問・研究の中心としてのシンボリックな意味を持ってきたと言えるでしょう。

これに加えて、特に関西学院大学の場合には、図書館が関西学院のスクール・モットーである“Mastery for Service”の精神を学ぶ道場としての役割を担うものであることに是非思いを馳せて頂きたいと思うのです。

この点に関連して、孔子の有名な次の言葉に触れてみたいと思います。

『学びて思わざれば則ち罔く 思いて学ばざれば則ち殆し』（論語）

たとえ万卷の書を読破し、あらゆる事柄を学んだとしても、何のため、誰のために学ぶのかについて自ら沈思黙考することがないのなら、万卷の書も単なる知識の膨大な堆積でしかないでしょう。また逆にいかに高い志を持っていたとしても、その志を実現するに足る十分な知識を有し、学問を研鑽する努力が伴わないのなら、そのような志も単なる絵空事に終わってしまうでしょう。図書館は自ら「学び」かつ「思う」ことを鍛錬する最適な場なのです。

今年は、西宮上ヶ原キャンパスの新大学図書館が建設されて10周年の年にあたります。21世紀に入り、特に科学技術の進展、とりわけIT技術の進歩には著しいものがあり、図書館もこの動向に適応する必要があることは言うまでもありませんが、時代の変化の中にあっても図書館の役割は今後とも不変であると思うのです。

関西学院大学図書館が、関西学院大学での勉学・研究の場であると同時に、“Mastery for Service”の精神を学ぶ道場として、これからの人生の歩みの中で重要な役割を果たすことを心から祈念いたします。

『あなたたちは真理を知り 真理はあなたたちを自由にする』

（西宮上ヶ原キャンパス大学図書館入口に掲げられている聖句 ヨハネによる福音書8章32節）

関西学院大学図書館長 杉原 左右一